

第2章 現状と課題

2.1 奈良市の環境の特徴

環境教育を進めていくうえで、本市の環境の特徴を理解しておくことはとても重要です。ここでは、本市の環境の特徴についてまとめ、それらの特性・資源環境特性・環境資源を有効に活用し、環境に関する興味や関心を持てるような環境教育の素材を明らかにします。

(1) 歴史環境

本市は、710年に平城京が築かれ、絢爛たる天平文化が花開きました。またそれ以前の時代に造られた古墳や遺跡なども各地に見られ、悠久の歴史の中で先人が自然と共に生き、数多くの歴史的文化遺産を守り伝えてきました。平成10年12月に「古都奈良の文化財」として世界遺産に登録された8資産群(東大寺、興福寺、春日大社、春日山原始林、元興寺、薬師寺、唐招提寺、平城宮跡)をはじめ、国宝や重要文化財、史跡、名勝、天然記念物などの指定文化財、さらに文化財を支える選定保存技術などを有し、指定文化財件数の多い都市のひとつとなっています。

また、歴史的風土保存区域に指定されている春日山、平城宮跡、西ノ京は、歴史上意義を有する建造物、遺跡等が周囲の自然環境と一体をなして古都における伝統文化を形成しており、歴史的な風土の保全が図られています。



平城宮跡



若草山より市街地を望む

奈良市の文化財

文化財には、建造物・仏像・遺跡などのほか、伝統的な慣習や芸能、珍しい動植物なども含まれます。

わが国では文化財保護法に基づいて、保護すべき文化財が指定・選定・登録されています。さらに県と市の教育委員会も、各種の文化財を調査するとともに、条例に基づいて文化財を指定・選定し、それらの保存と活用を図っています。

市内にある指定文化財（総件数 1026 件）

分類		国指定	県指定	市指定	総数
有形文化財	建造物	102	37	24	163
	美術工芸品	623	66	73	762
無形文化財		1	1	0	2
民俗文化財	有形民俗文化財	2	3	7	12
	無形民俗文化財	3	8	3	14
記念物	史跡	27	5	8	40
	名勝	7	0	0	7
	天然記念物	6	6	14	26
総数		771	126	129	1026

平成20年7月10日現在（単位：件）

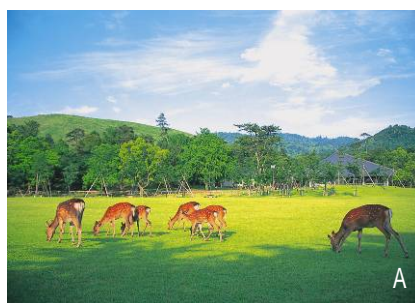
(2) 自然環境

東大寺や春日大社をはじめとする歴史的文化遺産とそれらを包み込む春日山原始林や奈良公園などの自然環境があり、中でも、国の特別天然記念物に指定されている春日山原始林は極めて自然度の高い植生環境を有し、学術上重要な昆虫類や両生類の生息地でもあるため、「市街地に隣接した世界で最も自然度の高い森林」と評価されています。歴史的文化遺産と一体となった緑豊かな空間、公園、水辺空間などが奈良らしさを醸し出し、都市にうるおいとやすらぎを与えています。

また、春日山から大和高原へ連なる東部・月ヶ瀬・都祁の地域は、アカマツ林やスギ・ヒノキの植林地などの森林が広がり、美しい清流や豊富な水資源などの自然環境に恵まれています。管理されなくなった山林や耕作放棄された田畑もみられることから、多様な動植物が生息する里山や河川などの自然環境の保全を図る必要があります。



春日山原始林



奈良公園

(3) 快適環境

市街地内に世界遺産や伝統的建築物等が建ち並ぶ街並みや街道、歴史的眺望景観などが、本市の都市環境の特徴です。

特に「ならまち」は町屋の面影を今に伝えていて、訪れる人々にやすらぎとうるおいを与え、時には懐かしささえ感じさせてくれる古い町並みです。

また、国際文化観光都市としてふさわしい、きれいな町をつくるため、平成7年1月1日から「奈良市ポイ捨て防止に関する条例」を施行、美化促進重点地域を指定し、市民活動団体や事業者と協働して市民・観光客にポイ捨て防止を呼びかけています。



奈良町通り



ポイ捨て防止啓発活動

(4) 生活環境

本市には、地域のシンボルとして大切にし、将来に残していきたい音風景として、「音風景 100 選」に「春日野の鹿と諸寺の鐘」が認定されています。また、「かおり風景 100 選」には「なら燈花会のろうそく」と「ならの墨づくり」が認定されています。

冬場、特に 2 月は降水量が少ないことにより河川の流量が減少して水質が悪化しやすくなるため、水質改善強化月間に定められています。そこで、水質改善意識の向上を図り、生活排水対策を呼びかけるため、街頭キャンペーンやパネル展などの啓発活動を行っています。



なら燈花会



水質改善強化月間啓発パネル展

(5) 資源の循環

大量生産、大量消費、大量廃棄という社会経済活動や生活様式を見直し、3R（リデュース・リユース・リサイクル）が促進された環境への負荷が少ない循環型都市を目指しています。

市民一人ひとりが環境にやさしいライフスタイルに転換するきっかけづくりとして、5月の「ごみゼロの日ならリサイクルフェスタ」や10月の「環境フェスティバル」などの開催を市民活動団体やグループ等と協働して推進しています。

また、平成 11 年 3 月から全市 9 種分別の導入を契機に、市民の努力により家庭から出るごみの量も年々減少する傾向にあります。



環境清美工場の施設見学



ごみゼロリサイクルフェスタ

(6) 地球環境

地球温暖化防止に向け日常生活や事業活動を見直すことから環境への負荷の低減に取り組み、その行動の輪を広げる活動を推進しています。

毎月20日の「ならマイカーひとやすみデー」や6月の環境月間、12月の大気汚染防止推進月間・地球温暖化防止月間の啓発活動などを実施しています。

また、「奈良市アイドリング・ストップに関する条例」により、世界遺産周辺をアイドリング・ストップ促進重点区域に指定し、駐車時の不必要なアイドリングを止め、市民の生活環境及び文化財の保全を図っています。また、春日大社・薬師寺の駐車場に乗務員休憩所を設置し、アイドリング・ストップの実践を推進しています。

さらに、地球温暖化防止に向けた新エネルギーの普及や省エネルギー対策の実践、食育や地産地消なども推進されています。

一方、市民・NPO・事業者・行政などが協働して地球温暖化対策等の活動を推進する「奈良市地球温暖化対策地域協議会（通称：ならエコ・エコの和）」が平成20年10月26日に設立され、さまざまな主体が対等な立場で協議して、環境（エコロジー）も経済（エコノミー）も持続可能な社会を目指しています。



環境月間啓発活動



地球温暖化防止月間啓発パネル展



アイドリング・ストップ実践
乗務員休憩所（薬師寺）



「ならエコ・エコの和」設立記念講演会

2.2 主体別の環境教育の現状と課題

環境教育は、さまざまな主体において実施され、お互いに連携・協働して推進していくことが重要です。ここでは、主体別の環境教育につながる取り組みの現状や課題を示します。

(1) 市民・家庭

市民環境講座や自然観察会、イベントなどへの参加を通して、地球温暖化防止やごみ減量など環境にやさしい行動を実践する家庭が増えています。日常生活の中でも、テレビ、新聞、インターネット等により多くの環境情報が容易に入手できるようになり、最近では、地球温暖化によると考えられる種々の異変現象や食の安全性の問題も含めて環境問題に対する関心は高くなっています。



子どもから大人まで家族みんなで話し合うことで、身近な環境問題や地球環境問題への理解を深め、一人ひとりが積極的に環境に配慮した行動を実践することが大切です。特に、幼児期からは感性を養う環境教育の実践が重要であり、子どもたちが自然とふれあいながら遊ぶことで、自然や環境に対する興味・関心を高めるとともに、自然のすばらしさやいのちの大切さを学ぶことにつながります。

【課題】

体験を通じた環境への興味・関心の向上。

環境について学ぶ講座やイベントなどへの積極的な参加。

一人ひとりの環境に対する理解の充実と、家族全員での知識の共有。

環境に配慮した具体的な行動の継続的な実践。

(2) 地域

自治会やボランティアグループなどを中心とした環境保全活動がそれぞれの地域で実施されています。

佐保地区の佐保川清掃活動は、自治会、婦人会、万年青年クラブ、PTA、小・中学生、市民活動団体、県や市が協働し、佐保川を昔の姿に戻そうと、草刈りやごみの収集を行っています。環境保全とともに、人と人とのつながりを大切にする心をはぐくみ、地域コミュニティの活性化につながっています。

また、農業者と地域住民が協働して、農地や農業用水、周辺環境の保全を図る「農地・水・環境保全向上対策」が大柳生や都祁などの9地区で行われ、農業者以外の人も含めた地域の人たちが参加して地域ぐるみで取り組んでいます。

さらに、生涯学習センター・公民館では、様々な講座やイベントが開催され、歴史・自然・食・地球環境など環境教育につながるテーマなどもあり、「いつでも・どこでも・だれでも」学ぶことのできる場となっています。



佐保川清掃活動



小学生の田植え実習（帯解地区）

自治会、婦人会、子ども会、PTAなど地域の様々なコミュニケーションの場を活用して、環境問題に関する共通の認識を深め、身近な環境づくりに繋げる必要があります。また、地域や身近な暮らしの中などで自然の大切さや楽しさを伝えたり、地域の活動を先導するリーダーやボランティアグループの存在も非常に重要と考えられます。

【課題】

地域活動の活性化や地域コミュニティ再生の促進。

子どもから大人まで、あらゆる世代間の交流につながる地域活動の実践。

環境リーダーの育成。

他の地域やグループとの情報交換などによる、活動の輪の拡大。

(3) 学校

各学校や地域の特色を考慮しながら、学校教育活動全体を通して環境教育に取り組み、子どもたちが環境に対する興味関心を持つとともに、問題解決に必要な判断力を身につけ、主体的な行動ができることを目指しています。

保育園や幼稚園では、日々の生活や遊び、自然とのふれあい、食体験を通じて、環境に関する感性を養っています。小学校においても農作物の栽培、収穫体験を行い、また3・4年生を中心に浄水場や清掃工場の見学を実施し、水や河川・森林環境保全の大切さやごみの減量・分別排出の重要性などの理解と関心を深める学習に取り組んでいます。

世界遺産学習では、地域の歴史・自然環境を通して、身の回りの環境に対する関心を高め、一人ひとりの生活が自然環境に与える影響を考え、ライフスタイルを見直すことにつながっています。

食育においては、「食に関する全体計画」を作成し、食事の重要性とともに生産者や調理者、自然の恵みに感謝し、食べ物を大切に作る心の育成を図っています。

また、埋蔵文化財調査センターでは、平成20年4月から社会科学習等における体感学習教材として「ドキ土器キット（発掘調査で出土した縄文時代から奈良時代までの石器や土器などの実物資料と解説書）」を貸し出す事業を行っています。

一方、教職員を対象に、環境教育に関わる研修講座を開設し、身近な素材から環境問題を考え、環境保全を考える授業づくりについて実践的な力量を高めるための研修を行っています。また、食育の指導力向上に向けた研修講座も開催しています。

教育委員会指定研究員による環境教育部会では、環境学習への様々な局面からのアプローチの方法、発達段階に応じたテーマ設定の研究や実践例の収集などを行い、学校園への啓発を行っています。



浄水場の見学会



ドキ土器キット

【課題】

教職員研修の充実による、実践的な指導力向上。
環境関連施設や歴史・自然環境などの有効な活用。
専門機関と連携した指導方法の工夫や体験学習の充実。
わかりやすい学習教材の提供などの支援。

(4) 市民活動団体

環境保全を目的とする市民活動団体は数多くあり、学習会や自然体験などを開催し、家庭や地域などを対象に環境教育の機会を提供しています。

ごみ減量・リサイクル学習会の卒業生が中心となり結成された「ごみ懇談会」は、環境フェスティバル実行委員として啓発イベントに取り組むとともに、奈良市のごみ事典、レジ袋削減活動、市民アンケート等に取り組み、「もったいない」の心の育成や分かりやすい分別排出の啓発、ごみ減量への普及に効果をもたらし、会員一人ひとりが各地域でごみ減量リサイクル普及活動の輪を広げています。

また、「奈良市地域婦人団体連絡協議会」は地域社会の発展に寄与するため、環境問題に対する啓発活動をはじめ各種の事業、活動に取り組んでいます。その一環として「クリーン・ポイ捨て防止キャンペーン」を実施し、市内主要箇所を重点的に清掃活動するとともに、美化促進重点地域でポイ捨て防止を呼びかけています。



ごみ懇談会



クリーン・ポイ捨て防止キャンペーン

各主体の連携に積極的にかかわり、さまざまな主体の活動のコーディネートなど、専門性を活かした機能を発揮することが期待されます。柔軟で多様な活動が可能で、専門的な知識や技術を活用した取り組みを推進することが求められています。

【課題】

地域に根ざした活動の推進。

他団体とのネットワーク化による活動の充実。

活動の継続・発展や新たな活動グループの出現をサポートする人材の育成。

(5) 事業者

近年、環境関連法令の遵守や ISO 規格に適合した環境マネジメントシステムの導入、社員教育などの社内管理とともに、地域の清掃活動や植樹活動など地域社会への貢献や市民活動団体などへの助成、施設等の提供、食育活動、学校などへの出前講座といったさまざまな対外的活動を実施し、企業の社会的責任(CSR)を積極的に推進している事業者が増えています。

事業活動に伴う環境への負荷が、地域や地球規模の環境問題と関連していることを認識し、環境に配慮した事業活動を推進する必要があります。さらに、さまざまな主体との積極的な連携や地域に密着した活動の推進が求められています。

【課題】

社員への環境意識啓発教育や環境部門での専門教育の推進。

事業特性を活かし、環境に配慮した事業活動の実践。

社会の一員としての、各主体との協働や地域に密着した活動の推進。

(6) 観光客等

本市は、毎年 1300 万人を超える観光客が訪れる、国際文化観光都市です。

世界遺産周辺の「アイドリング・ストップ促進重点区域」における不必要なアイドリングストップ、大宮通りや三条通りを中心とした「美化促進重点地域」における空き缶やタバコなどのポイ捨て防止、さらに環境負荷の少ない交通手段の利用などを推進しており、国内外から訪れる多くの観光客が協力し、環境に配慮した行動を実践しています。



アイドリング・ストップ啓発看板



美化促進重点地域(三条通り)

世界的な歴史的文化的遺産と豊かな自然が調和したまちにふれ、環境に対する興味・関心を高めるとともに、環境に配慮した継続的な行動を実践する必要があります。

【課題】

豊かな歴史・文化や自然とのふれあいを通じた、環境を大切にする意識の向上。

徒歩や自転車、公共交通機関の利用促進。

環境に配慮した行動の積極的な実践。

(7) 行政

本市の事務及び事業に伴う温室効果ガスの削減を目的として、平成 20 年 3 月に「奈良市地球温暖化対策庁内実行計画（第 2 次）」を策定し、平成 18 年度を基準年度として新たに 3%の CO₂ 削減目標を掲げ、全職員が環境に配慮した取り組みを積極的に推進しています。毎月 20 日（休日の場合は翌日）には環境美化ボランティア活動を実施し、勤務時間前に市職員が駅から庁舎・水道局までの道路や庁舎・出先機関周辺などのごみ拾いを行うことで、地域の環境美化及び職員一人ひとりの環境保全意識の向上を図っています。

また、市民と行政の良好なパートナーシップを築くため、市職員が「なら・地域サポーター」となり、地域コミュニティの再生と地域活動の活性化に向け、地域と共に考え、共に実践する制度を平成 20 年 5 月より導入しました。担当地域の各種活動団体が開催するイベント（地域美化活動、防災訓練、祭りなど）に自主的に参加しています。

さらに、市政に対する理解と関心を深めていただく「奈良市まちかどトーク」では、暮らし、環境、まちづくり、学校教育、水道などに関するテーマがあり、環境に関する情報提供や啓発につながっています。また、本市の環境の保全と創造に関する施策についてまとめた「奈良市の環境」をホームページに掲載し、情報提供を行っています。

平成 20 年 8 月に「奈良市食育推進計画」を策定し、“「食」を通じて健全な心とからだを培い、健康で豊かな生活が送れるまちづくり”を基本理念とし、重点目標・行動目標を定め、平成 24 年度を目標とした 5 ヶ年計画を推進しています。

また、平成 18 年度から都祁まちづくり協議会主催による農業交流体験事業を実施しています。田植えや稲刈り、ブルーベリー採り、蛍観賞などを通して、農業の大変さや収穫の喜びを実感するなど、都市部と山間部との地域間交流が図られています。

夏休みには、小学生の親子を対象とした「リバーウォッチング親子の集い」を実施し、河川の水生生物を観察して水質を調べるなど、身近な自然にふれる機会を提供しています。



農業交流体験



リバーウォッチング親子の集い

市職員の環境教育や関係各部局の連携強化を推進するとともに、各主体との協働を意識した総合的・体系的な取り組みが必要です。

【課 題】

市職員のさらなる意識啓発や積極的な環境保全活動への参加促進。

行政内部の連携強化。

各主体との協働や普及啓発による環境教育の展開。